

「日中植林・植樹国際連帯事業」

2018 年度中国社会科学院青年研究者代表団第 2 陣

参加者の感想(抜粋)

○ 日本の田舎の高齢者は、若い頃は国のために力を尽くして働き（私が出会ったホストファミリーの S さんを例にすると）、年をとってからは田舎に戻って農村振興に貢献し、71 歳という高齢ながら、今後 10 年間の新しいプランや構想を語ってくれた。交流する過程で、S さんは何度も団員たちに将来の夢を尋ね、1 人 1 人の研究分野や研究内容の話に耳を傾け、「あなたたちは国の希望よ。がんばって」と励ましてくれた。こうした高齢者たちの気持ちの持ちように感動した。若者は彼らの姿勢に学び、しっかり記憶しておくべきと思う。

○ 今回の旅では、三重県の日市公害と環境未来館を参観した。日本では 1950～1960 年代にかけて、大気汚染が多くの人に健康被害をもたらした。中でも日市市の受けた被害が最も大きく、子どもから老人までが喘息を患い、海には異臭魚が出現した。こうした状況を受け、9 名の市民が企業 6 社を相手に訴訟を起こしたところから、長い長い権利を守るための闘いが始まった 4 年 5 カ月の裁判の末、原告側が勝訴。8800 万円の賠償金を勝ち取った。

日市公害訴訟での勝利は、国、企業、市民が共に闘った結果である。その裁判を通して、市民が相応の補償を得たばかりでなく、熱心な科学研究者たちは積極的に環境汚染の問題に取り組み、環境保護エリアの範囲の拡大につながった。

中国は発展途上の国であり、企業も成長する過程で日本と同様の問題に直面する。成長を遂げつつ、環境問題への対策を講じることは、日市市が私たちに残してくれた貴重な経験だ。

○ 参考になった部分について：

まずは、日本人の仕事に対する精神と集中力だ。社会全体の基盤がこのような匠の精神によってできている。こうした仕事に対する向き合い方や経験から、中国は官民ともに学ぶべきだと思う。次に、日本の農村振興は、決して農村の現代化と産業化を意味するものではなく、それよりも農民（とくに高齢者の人々）の仕事に対するモチベーションの引き上げを重視していることだ。これは私たちも反省しなければいけない点だ。国の発展とは「人の成長」であり、営利事業の拡大や再生産だけでは為しえない。3 つ目は、他者の立場で設計された国民のための施設やサービス理念であり、これも中国が学ぶべき点だと思う。

中国社会と日本社会の違いについて：

これは壮大かつ重要な問題でもある。ポイントは、双方の相互理解がまた十分ではない点にある。表面上の理解にとどまっていることがとても多い。中国は日本の物質的な発展に注目してきたが、日本人の考え方に対する関心は乏しい。日本もまた、中国に対して多くの偏見を持っており、中国の急速な発展に伴って生じたマイナス面を強調しすぎている。米国が再びアジア太平洋地域への関与を強めているこの世界情勢で、中国がオープンな態度を保持することができるなら、東アジアは連動して発展していけるし、それは国民にとっても有益だ。つまり、中国と日本は、

互いを鑑とし、互いの良いところを吸収し、お互い自分たちに足りない部分を見つめるべきだ。国民は、正確かつ積極的に、「永遠の隣人」が自国にもたらす意義を認識すべきだ。

○ 今回の活動を通して、日本は以下の点において優れていると感じた。中国でもこの点は参考にできると思う。

第一に、危機意識だ。日本は資源に乏しい国だが、日本人の危機意識は非常に強く、問題を未然に防いでいる。そして、環境保護や防災対策の面において、被害を最小限にとどめ、社会、経済、文化の発展を促している。

第二に、国、社会、個人がそれぞれの役割を果たし、均衡のとれた社会の発展を促している。社会的組織や各種機関などが重要な働きをし、協力し合い、特定の分野や階層だけが突出することを防ぎ、社会全体のバランスを保っている。

第三に、社会保障システムを完備している。個人が経済的な自由を与えられ、仕事がただの生活の手段ではない存在になっている。とくに、定年退職したあとの高齢者は、自分の意のままに社会活動に取り組んだり引き続き世の中に貢献することで、それぞれの生きがいを見出している。

もちろん、日本は先進国であり、経済発展は頭打ちで、少子高齢化が進み、独身者の孤独といった問題も深刻になっている。各分野がともに手を取って、こうした状況の改善に努めていかなければならない。

○ この数日間の視察は、私のこれからの生活と仕事に大きく影響していくと思う。主に以下の点を反映させていきたい。

第一に、公平・公正な社会という原則を維持し、規則と基準を堅持すること。例えば年金の支給を受ける場合、退職後も再就職して働くならば、その収入が一定の金額を超えてはならないという規則がある。今後は仕事においても、日々の暮らしにおいても、弱者の立場で問題を考えるようにしたい。

第二に、伝統の保護と地方振興に対する取り組みだ。日本は国土が狭く、高齢化問題も深刻で、農村部は労働力が不足している。中国も高齢化に直面してはいるが、まだ日本ほど突出した問題にはなっていない。こうした状況の下でも、日本では地域社会が力を発揮し、国の政策と団体・企業からの助成が結びつく形で地方をサポートし、新たな地方文化の発掘が行われている。こうした取り組みが、より多くの人を地方に引きつけ、地方が活力を取り戻すことにつながっている。中でも、その地域の文化的、歴史的な要素が振興の主な材料となっている。

第三に、何事も「未然に防ぐ」という精神だ。災害の多い日本の防災対策は万全である。